Ａ－１　学校研究の概要

１　研究の仮説

「教科でつけたい力は何かを明確にし、それがどのように生きて働く力となるのかという視点を持ち、教科の学びの中で学力を育むならば、その過程で読解力は育ち、全教科連携の中で、生きた学力としての読解力が向上する。」の仮説のもと、さらに３つの仮説を設定し、読解力向上の具現化に努めた。

(1)　学びの中に読解力の観点を設定し、確かな学力を育てるための授業展開の工夫をするならば、各教科でつけたい読解力を育てることが出来るであろう。

読解力の観点として、読解力を５つの力の総称と分析的に捉え、研究を進める。

① 発想力　　課題に対し、自分の考えを持つことができる力。
② 論理力　　理由を明らかにし、考えを述べることができる力。
③ 表現力　　自分の考えをまとめ、相手にわかりやすく伝えることができる力。
④ 評価力　　自分以外の考えに触れ、自分の考えを見直すことができる力。
⑤ コミュニケーション力　　みんなと協力し、よりよい考えを求め、作り出すことができる力。

(2)　協同学習の観点をもって学習過程を工夫すれば、意欲を高め、読解力の向上を促すことができるであろう。

(3)　学習課題の設定を工夫すれば、知識を生きた学力に高めることができるであろう。

２　研究の内容

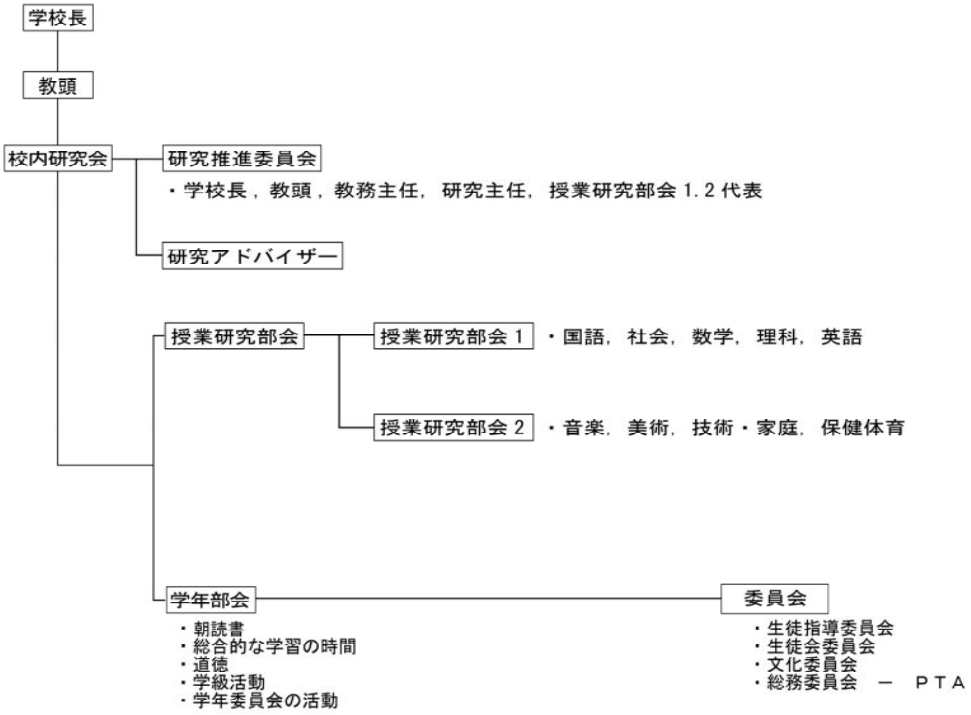
(1)　学習課題における工夫
① 考える楽しさが感じられ、意欲を引き出す課題を設定する。
② 教科の特性に基づく見方や考え方など、学びのよさが感じられる課題を設定する。
③ 実験や調べ学習・体験学習などを通し、学びの有効性が実感できる課題を設定する。
④ 既習の内容や経験を生かし、学びが深められる課題を設定する。
⑤ 他教科の学習内容とのつながりが感じられ、学びが広がる課題を設定する。

(2)　学習過程における工夫（協同学習の取り組みを中心として）
① 学習のねらいを明らかにし、見通しを持たせる。
② 個人で考えることを大切にしながら、ペアやグループでの学習を取り入れる。
③ 発表など、考えを全体で評価し合える場面を設定する。
④ 学びの評価を行い、達成感や成就感を次の意欲へとつなげる。

(3)　学校全体の取り組み
① 朝の 15 分間読書。
② 定期テストでの記述式問題の工夫。
③ 「学習のてびき」を単元（題材）ごとに作成し、見通しをもった学習の工夫。

④ 家庭学習習慣の定着に向けた宿題の工夫。
⑤ 学年委員会など生徒が主体となった、学習意欲向上に向けた工夫。
⑥ PTA だよりなどを利用した広報活動。

３　研究の方法

(1)　模擬授業を行い、他教科の実践を共有する。
(2)　公開授業、研究授業等、授業を積極的に見せ合う。
(3)　アドバイザーを招聘し、指導や助言をいただく。
(4)　校内研究会など、校内における研究会の質的充実を図る。
(5)　研究先進校の視察を積極的に行い、報告会において実践内容を共有する。
(6)　「学びアンケート」を通し、生徒の実態を掌握する。

４　研究組織